

# **Patch for Ubuntu**



## 特記事項

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[特記事項 \(##### 25\)](#)に記載されている情報をお読みください。

# 本書に関する注意事項

本書は、BigFix バージョン 9.5 と、新しい版で明記されていない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

# 目次

特記事項.....	2
本書に関する注意事項.....	3
<b>第 1 章. 概説.....</b>	<b>1</b>
サポートされるバージョンおよびプラットフォーム.....	1
サイトのサブスクリプション.....	3
<b>第 2 章. Patch for Ubuntu の使用.....</b>	<b>4</b>
Fixlet を使用したパッチ.....	4
アクション・ロギング.....	6
Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイト.....	9
置き換えられる Fixlet.....	9
よくある質問.....	11
パッチのアンインストール.....	14
リポジトリの追加.....	17
リポジトリのインポート.....	19
リポジトリへのエンドポイントの登録.....	21
リポジトリの削除.....	23
<b>付録 A. サポート.....</b>	<b>24</b>
特記事項.....	25

# 第 1 章. 概説

BigFix Patch for Ubuntu の Fixlet を使用することにより、Ubuntu からリリースされるセキュリティー・アップデートおよびサービス・パックを管理することができます。Fixlet は Ubuntu 向けパッチ・サイトから入手できます。

BigFix Patch for Ubuntu を使用すると、Ubuntu クライアントを常に最新の更新およびサービス・パックが適用された状態にすることができます。パッチ管理は、Ubuntu 向けパッチ・サイトを使用して行うことができます。新しいセキュリティー・アップデートが使用可能になるたびに、BigFix により Fixlet がリリースされます。この Fixlet により、エンタープライズ内のコンピューターのうち、当該の更新が必要なものがすべて識別され、更新が適用されます。

BigFix コンソールのオペレーターは、キーを数回押すだけで、すべての関連コンピューターにパッチを適用し、ネットワーク全体における適用の進行状況を視覚化することができます。BigFix エージェントは、オペレーティング・システムのバージョン、プロセッサー、および既存のインストール済みパッケージを調べて、パッチの必要なタイミングと要否を判別します。

Fixlet を使用することにより、大量の更新とパッチを比較的容易に管理し、対象を詳細に絞り込んだ自動適用を希望のスケジュールで実行できます。ネットワーク帯域幅を最適化するために大容量のダウンロードを段階的に実行でき、インベントリーまたは監査の制御のために、適用プロセス全体をモニター、グラフ化、および記録できます。

## 新機能

Patch Management for Ubuntu は、Ubuntu 18.04 LTS をサポートするようになりました。

## サポートされるバージョンおよびプラットフォーム

Ubuntu 向けパッチ・サイトでは、Ubuntu バージョン 14.04、16.04、18.04 LTS (Long Term Support) がサポートされています。これらは通常、大規模な適用に使用されるリリースです。

Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトでは、以下のバージョンおよびプラットフォームがサポートされています。

**表 1. Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトでサポートされるバージョンおよびプラットフォーム**

バージョン\n	プラットフォーム (サーバーおよびデスクトップをサポート)	Fixlet サイト名
Ubuntu 10.04 LTS*	x86 および AMD64	Ubuntu 1004 向けパッチ
Ubuntu 12.04 LTS**	x86 および AMD64	Ubuntu 1204 向けパッチ
Ubuntu 14.04 LTS	x86 および AMD64	Ubuntu 1404 向けパッチ
Ubuntu 16.04 LTS	x86 および AMD64	Ubuntu 1604 向けパッチ
Ubuntu 18.04 LTS	AMD64	Ubuntu 1804 向けパッチ

Ubuntu では、「LTS」とは「Long Term Support」を表します。これは通常、大規模な適用に使用されるリリースです。

**■ 注:** \*Ubuntu 10.4 LTR および 12.04 LTS は、サポート終了日に達しており、セキュリティ更新およびメンテナンス更新を含む、更新のサポートを行っていません。一方、BigFix は、サポート終了日に達した製品に対しては、コンテンツおよびサポートの提供を行っていません。

**■ 注:** \*\*Ubuntu 12.04 LTS は、サポート終了日に達しています。2017 年 7 月 31 日より後は、Ubuntu 12.04 LTS 向けパッチ・サイトは非推奨となります。それに従って、「ライセンス概要 (Licence Overview)」ダッシュボードではそのサイト名にマークが付けられます。

場合によっては、Ubuntu が、関連する発表なしでパッケージをリリースすることがあります。そのようなパッケージは、Fixlet タイトルに「未指定」と示されています。それらのパッケージは、メイン、ユニバース、制限付き、およびマルチバースの各チャネル内の「セキュリティ」リポジトリにリリースされます。

**■ 注:** Ubuntu パッチの「低」、「中」、「高」の重大度カテゴリーは、CVE に示されています。BigFix Fixlet は、Ubuntu がリリースするパッケージ・アナウンスからの情報を参

照します。Ubuntu アナウンスでコンテンツの重大度が提供されない場合、Fixlet は重大度タイプとして「未指定」を示します。

## サイトのサブスクリプション

サイトとは、ユーザー、HCL、またはベンダーにより内部的に作成される Fixlet メッセージの集合です。

実装環境内のシステムにパッチを適用するために、サイトにサブスクライブして Fixlet メッセージにアクセスします。

サイトのサブスクリプションを追加するには、ベンダーまたは HCL からマストヘッド・ファイルを入手するか、またはライセンス・ダッシュボードを使用します。Fixlet サイトのサブスクライブについて詳しくは、『IBM BigFix #####』を参照してください。

サイトについて詳しくは、『IBM BigFix #####』を参照してください。

Ubuntu Fixlets をデプロイする前に、BigFix サーバーをパッチ・サポート・サイトにサブスクライブする必要があります。サイトを収集した後、デプロイメントに基づいて以下のタスクを選択し、実行します。

### タスク ID: 65 Ubuntu のダウンロード・ホワイトリストのセットアップ (Windows サーバー)

このタスクは Windows サーバーに適用可能です。

### タスク ID: 66 Ubuntu のダウンロード・ホワイトリストのセットアップ (Linux サーバー)

このタスクは Linux サーバーに適用可能です。

このタスクを実行する必要があります。そうしないと、「要求された URL は、この適用のダウンロード・ホワイトリストに適合していません。」というエラーが発生する可能性があります。

Ubuntu はパッケージの取り出し中に動的ダウンロードを使用します。セキュリティーの手段として、サーバーはホワイトリスト・ファイルのパターンに一致する URL を持つ動的ダウンロード要求以外の要求をすべてブロックします。エンドポイントは別にして、BigFix リレー・サーバーがサブスクライブ済みであることを確認してください。

## 第 2 章. Patch for Ubuntu の使用

Ubuntu セキュリティー・アップデート用の Ubuntu Fixlet サイトには、BigFix コンソールからアクセスします。

Patch Management for Ubuntu の Fixlet を使用することにより、Ubuntu から発行されるセキュリティー・アップデートを管理することができます。これらの Fixlet は、Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトで入手することができます。このサイトには、Endpoint Manager コンソールからアクセスします。Fixlet に対して適用される##### (*superseded*)# という用語は、BigFix と Launchpad の Web サイト (Ubuntu を含む各種ソフトウェアをホストする Web サイト) では異なる意味で使用されます。

### Fixlet を使用したパッチ

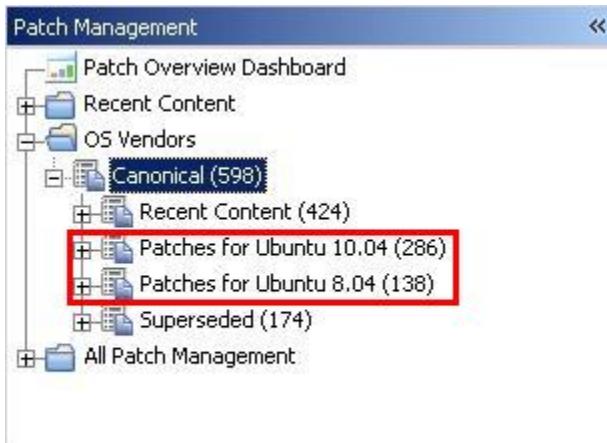
コンソールから、適用する必要がある適切な Fixlet に対するアクションを選択します。アクションは適用環境全体に伝搬され、Fixlet 作業域と「アクションの実行」ダイアログで行った設定に基づいてパッチが適用されます。

Ubuntu Fixlet は BigFix コンソールから適用できます。

##### ドメインで、ナビゲーション・ツリーの#OS #####をクリックして、#Canonical#をクリックします。

ナビゲーション・ツリーが展開されます。適切なバージョンの Ubuntu #####を選択します。

図 1. 適切なバージョンの Ubuntu 向けパッチの選択



右側にあるリスト・パネルで、適用する Fixlet をダブルクリックします。

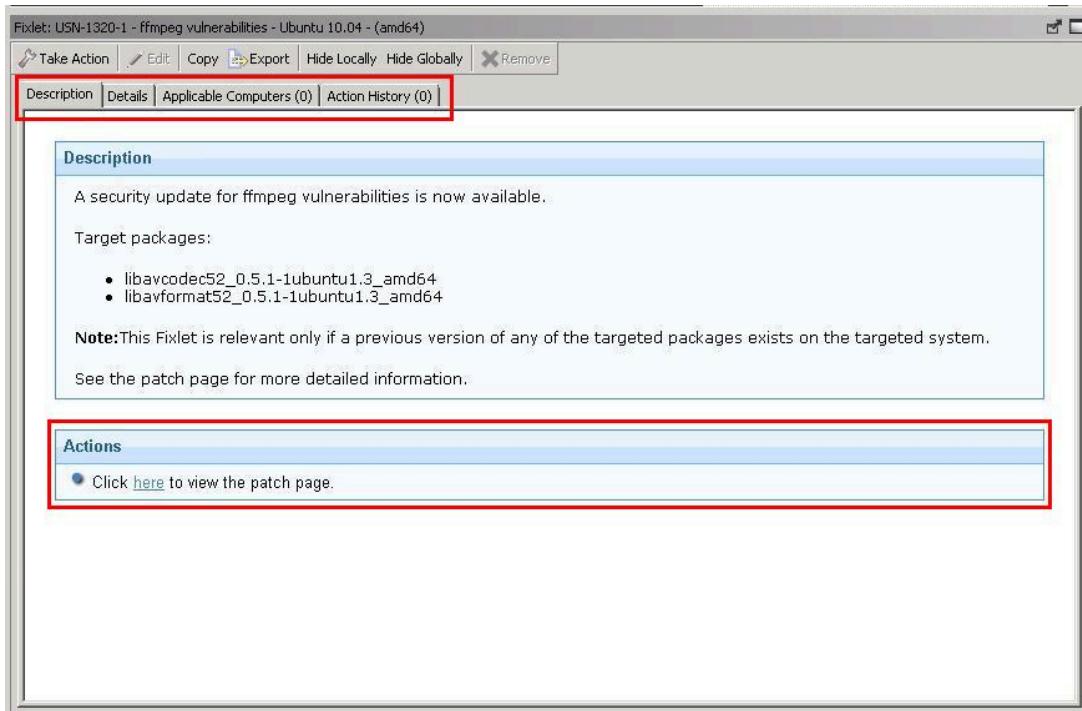
図 2. リスト・パネルからの Fixlet の選択

ID	Name	Source Severity	Site	Applicable Com...	Open Action Co...	Category
113200110	USN-1320-1 - ffmpeg vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (am...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	1 / 3	0	Security
113170110	USN-1317-1 - ghostscript vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - ...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113160110	USN-1316-1 - t1lib vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113150110	USN-1315-1 - jasper vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (am...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113140110	USN-1314-1 - python3.1, python3.2 vulnerabilities - Ubu...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113130110	USN-1313-1 - linux-ks-backport-oneiric vulnerability - Ubu...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113110110	USN-1311-1 - linux vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113100110	USN-1310-1 - libarchive vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113080110	USN-1308-1 - bztp2 vulnerability - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113070110	USN-1307-1 - php5 vulnerability - Ubuntu 10.04 - (amd64)	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
113010110	USN-1301-1 - linux-ks-backport-natty vulnerabilities - Ubu...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
112990110	USN-1299-1 - linux-ec2 vulnerabilities - Ubuntu 10.04 - (a...	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security
112970110	USN-1297-1 - python-django vulnerabilities - Ubuntu 10.04	<Unspecified>	Patches for Ubun...	0 / 3	0	Security

作業域で Fixlet が開きます。選択した Fixlet の詳細を確認するには、ウィンドウの上部にあるタブをクリックします。

「アクション」ボックス内のリンクをクリックして、適用を開始します。Ubuntu の Web サイトが開き、パッケージ情報と、ファイルをダウンロードするためのリンクが表示されます。

図 3. Fixlet の詳細および「アクション」ボックス内で適用を開始するリンク



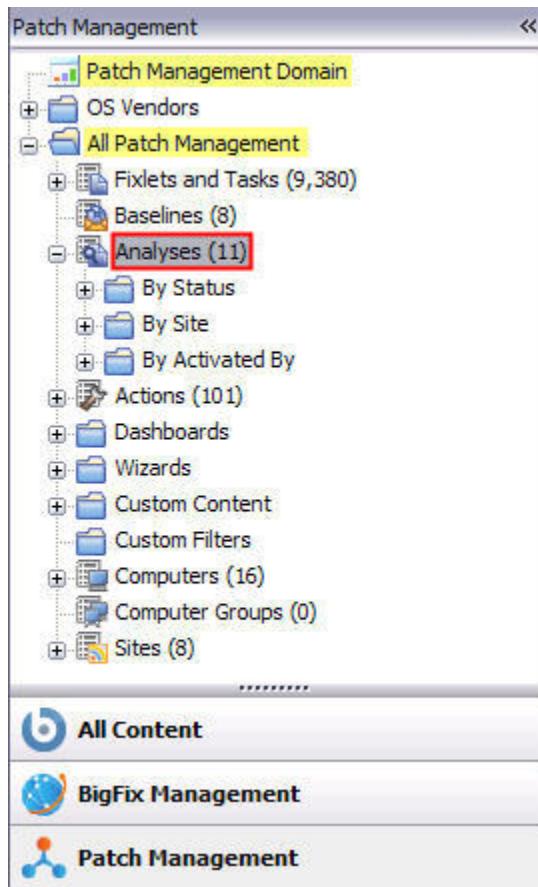
## アクション・ロギング

アクションが成功したかどうかをエンドポイントのログ・ファイルを調べて確認するには、「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析を使用します。パッチの適用前にテスト実行を適用することで、依存関係が解決されたかどうかを調べることもできます。

アクションが成功した場合、結果はエンドポイント上のログ・ファイルに書き込まれます。アクションの結果は、「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析をアクティブにすると表示できます。

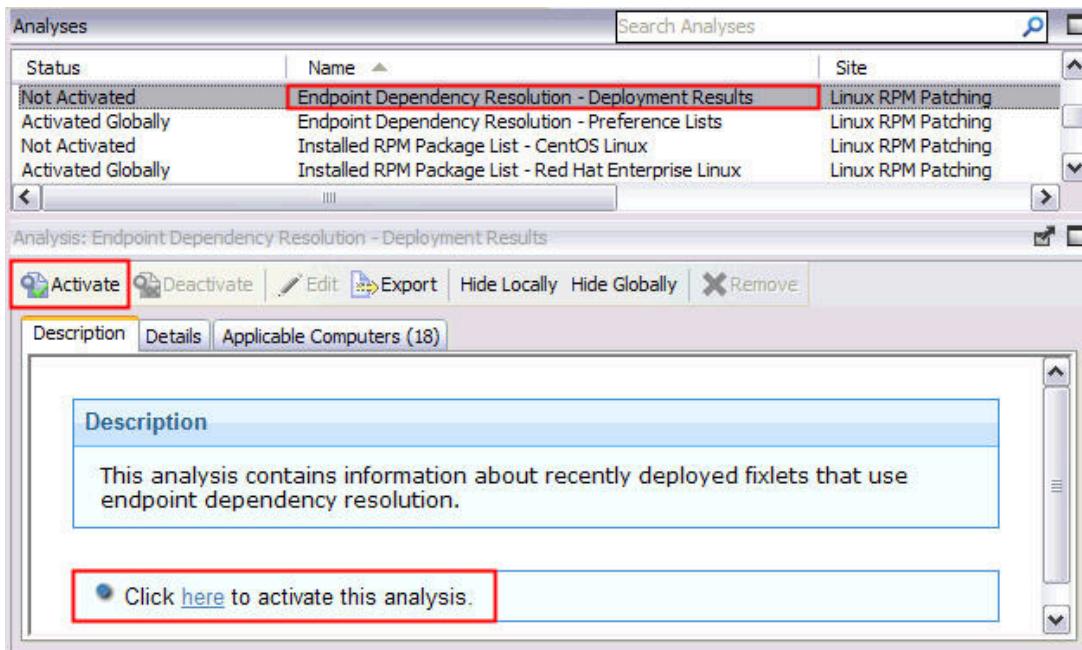
分析をアクティブにするには、「パッチ管理ドメイン」をクリックします。ナビゲーション・ツリーから、「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」 > 「分析」をクリックします。

Figure 4. ナビゲーション・ツリーからの「分析」の選択



右側にある「分析」リスト・パネルから「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」をクリックします。「アクティブ化」をクリックするか、「アクション」ボックス内で分析をアクティブにするリンクをクリックします。

Figure 5. 「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析のアクティブ化



分析をアクティブ化すると表示される「分析」ウィンドウで、「結果」タブをクリックします。

エンドポイントのプロパティーを確認するときには、そのシステム上の適用に関する最新情報を表示できます。このデータを表示するには、「すべてのコンテンツ」ドメインに移動し、「コンピューター」ノードを選択します。調べるコンピューターを作業域で選択し、「適用の結果」セクションまでスクロールダウンします。

Ubuntu パッチ Fixlet を実行するときには、パッチを適用する前にテスト実行を適用することもできます。「適用の結果」分析を表示して、依存関係が解決されたかどうか、およびインストールが成功したかどうかを判別できます。

「エンドポイントの依存解決 - 適用結果の分析の報告件数」と呼ばれるタスクを実行することで、出力の件数を制限できます。このタスクにアクセスするには、ナビゲーション・ツリーから「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」>「分析」をクリックし、Ubuntu サブノードをクリックします。デフォルトの分析の報告件数は、100 エントリーです。

**Note:** テストが失敗しても、このアクションは「修正済み」と報告します。

## Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイト

Ubuntu セキュリティー・アップデートは、メール・リスト、RSS フィード、Ubuntu の Web サイト、および Launchpad (Ubuntu などのアプリケーションをホストする Web サポート・サイト) から入手できます。

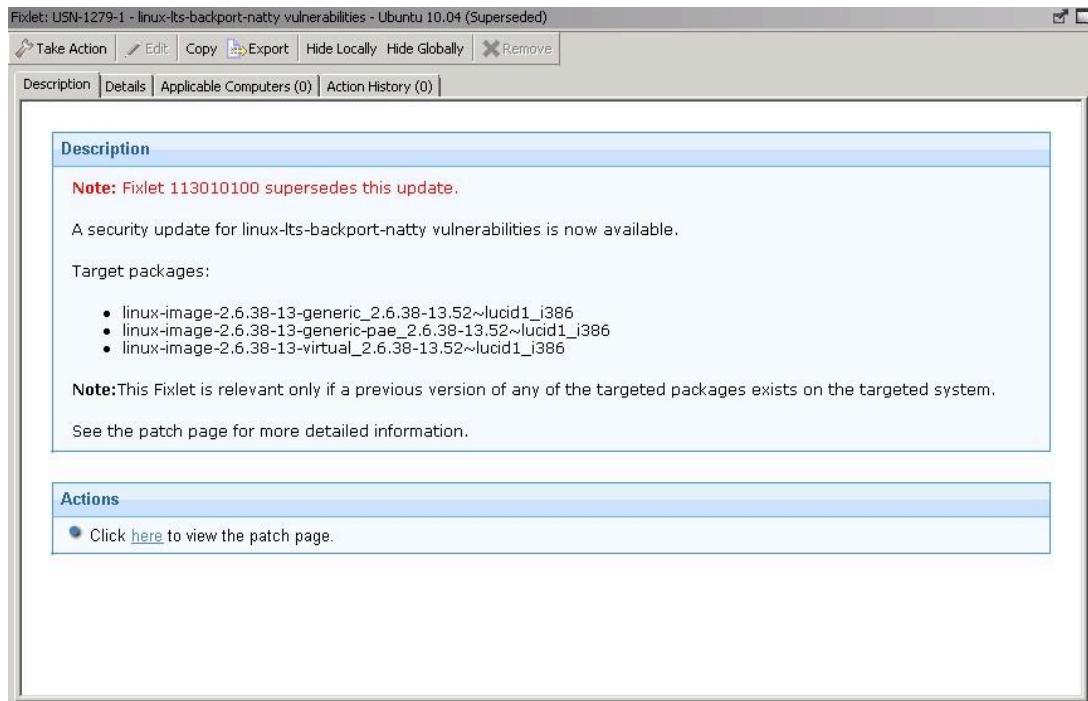
Ubuntu Fixlet 向けパッチ・サイトには、Ubuntu セキュリティー・アップデート用の、対応する Fixlet コンテンツが用意されています。Ubuntu は、セキュリティー情報をメール・リストおよび RSS フィードによって配信します。インストール・パッケージとセキュリティー情報の詳細も、Ubuntu と Launchpad の Web サイトを通じてリリースされます。Ubuntu の Web サイトでは、セキュリティー情報のアーカイブが保持されています。Launchpad の Web サイトでは、Ubuntu を含む、さまざまなソフトウェアの Web サイトがホスティングされています。

## 置き換えられる Fixlet

BigFix では、「置き換え (supersedence)」とは複数のパッケージを提供する Fixlet のプロパティを指します。Launchpad (Ubuntu などのアプリケーションのホスト Web サイト) では、「置き換え (supersedence)」とは各パッケージのプロパティを指します。

置き換えられる Fixlet とは、古いパッケージが含まれた Fixlet のことです。Fixlet が置き換えられると、新しいバージョンのパッケージが含まれた新規 Fixlet が存在するようになります。新規 Fixlet の ID は、置き換えられた Fixlet の説明で確認できます。

図 6. 新規 Fixlet の ID を示す、置き換えられた Fixlet の説明



## BigFix および Launchpad による「置き換え (supersedence)」の定義

BigFix for Patch Management と Launchpad では、##### (supersedence)#という用語の使用方法が異なります。Launchpad の Web サイトでパッケージのステータスが「置き換え (superseded)」となっている場合、これは BigFix で Fixlet が「置き換え」と表示されている場合とは意味が異なります。

Launchpad の用語では、##### (supersedence)#とは各パッケージのプロパティーを指します。BigFix for Patch では、##### (supersedence)#とは複数のパッケージを提供する Fixlet のプロパティーを指します。Fixlet が置き換えられているということは、同じパッケージのセットを持つ、より新しく、かつ拡張された Fixlet が存在していることを意味します。

## よくある質問

BigFix での Ubuntu パッチ適用における置き換えに関するよくある質問とそれに対する答えを以下に示します。

### 置き換えとは何ですか？

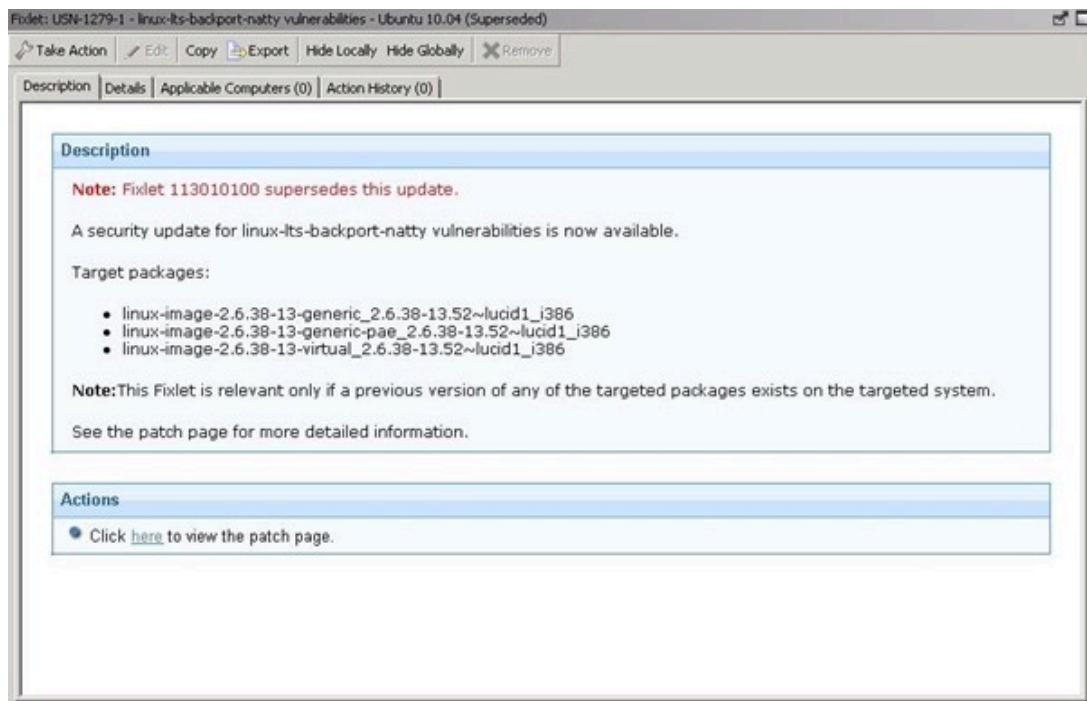
置き換えとは、古くなった Fixlet を最新の Fixlet に置き換えることに関するものです。

### BigFix パッチ適用で置き換えはどのように機能しますか？

置き換えは、新規にリリースされた Fixlet を使用して、BigFix アプリケーション Fixlet を最新バージョンに更新する場合に役立ちます。置き換えられる Fixlet は、バットトラッキングに関する以下の詳細が含まれている古い Fixlet と置き換わります。

 **注:** Fixlet の `x-Fixlet-Superseded` フィールドは、新しいバージョン番号を示します。

図 7. 置き換え情報



置き換え先バージョン(新しいバージョン)は、Ubuntu Fixlet のサンプルのスクリーンショットに示すように「説明」タブに表示されます。

### 置き換え先とは何ですか？

置き換え先は、古くなったバージョンを置き換えるか更新する最新の Fixlet です。

## 置き換え元とは何ですか?

置き換え元は、最新の Fixlet に置き換えられる古くなった Fixlet です。

アプリケーションの最新のバージョンが使用可能である場合でも、置き換えられる Fixlet を使用して、その同じアプリケーションをデプロイできますか?

はい。アプリケーションを最新のバージョンに更新することもできます。また、置き換えられる Fixlet を使用して、アプリケーションをデプロイすることもできます。アプリケーションに使用可能な更新があることは、Fixlet の説明に示されます。

## 置き換えられる Fixlet を使用できない例外とはどのようなものですか?

Google Chrome などのアプリケーションでは、使用可能な最新バージョンのみをダウンロードできます。

- ・ダウンロード可能なバージョン: このようなアプリケーションでは、置き換えられる Fixlet は使用可能な最新バージョンのみをデプロイします。
- ・理由: ダウンロード・リンクは、通常の Fixlet であるか置き換えられる Fixlet であるかに関係なく、すべての Fixlet で一定です。

## パッケージのアーキテクチャーは、置き換えで役割を果たしていますか?

はい。例えば、amd64 アーキテクチャー Fixlet は、別の amd64 アーキテクチャー Fixlet にのみ置き換えることができ、それ以外のアーキテクチャー Fixlet に置き換えることはできません。

## Ubuntu で置き換えはどのように機能しますか?

Ubuntu での Fixlet の置き換えは、パッケージ名とバージョン番号に基づいて機能します。

カーネル Fixlet とはどのようなもので、Ubuntu カーネル Fixlet では置き換えがどのように機能しますか?

カーネル Fixlet は、パッケージ名の前に *linux-image* が付与された Fixlet で、例えば、*linux-image-<version>-<flavour>* などです。

## カーネル Fixlet での置き換え:

- バージョン X.Y.Z-W のカーネル Fixlet の場合、X.Y はマイナー・バージョンと呼ばれます。置き換えが機能するためには、マイナー・バージョンが一致することが前提となります。つまり、Ubuntu カーネル Fixlet には HWE (ハードウェア有効化) シナリオが必要であるため、置き換え先のマイナー・バージョンが置き換え元のパッケージと一致する必要があります。

例えば、linux-image-4.4.x が置き換わることはできるのは別の linux-image-4.4.x のみであり、linux-image-4.8.x が置き換わることはできるのは別の linux-image-4.8.x のみです。

- 置き換えが発生するのは、それが同じタイプに属する場合のみです。つまり、linux-image-<バージョン>-generic が置き換わることはできるのは別の linux-image-<バージョン>-generic のみです。これは、名前に extra フレーバー・タイプを持つものに適用されます。

例えば、linux-image-extra-4.4.0-101-generic は、linux-image-extra-4.4.0-103-generic に置き換わりますが、linux-image-4.4.0-103-generic に置き換わることはできません。

### **USN Fixlet および未指定の Fixlet の置き換え先と置き換え元のパッケージ・バージョンが Ubuntu で類似していると、どうなりますか？**

Ubuntu では、USN ID が指定されていないすべての Fixlet は#### Fixlet にグループ化されます。

- USN Fixlet および未指定の Fixlet の置き換え先および置き換え元のパッケージ・バージョンが類似している場合は、USN Fixlet に優先権があります。つまり、USN Fixlet が未指定の Fixlet に置き換わります。
- 両方の Fixlet でパッケージ・バージョンが類似している場合に、未指定の Fixlet が USN Fixlet に置き換わることはありません。

### **Ubuntu では未指定の Fixlet が USN Fixlet に置き換わることができますか？**

はい。Ubuntu で未指定の Fixlet が USN Fixlet に置き換わることはできるのは、未指定の Fixlet のパッケージ・バージョンが USN Fixlet のパッケージ・バージョンよりも大きい場合のみです。

### **同じ Fixlet が 2 回以上置き換わりますか？**

いいえ。Fixlet が最新バージョンに置き換わると、Fixlet は再度置き換わることがないように対応する OS コードの `seenfile` で `superseded:True` とマークされます。

### 置き換えられた Fixlet では関連度の変更がありますか？

はい。以下のように、置き換えられる Fixlet に対して追加で関連度の検査が必要です。

```
<Relevance>(value of setting "_BESClient_Ubuntu_EnableSupersededEval" of
client as integer = 1) | false</Relevance>
```

## パッチのアンインストール

「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb packages)」タスクを設定して、他のパッケージに対する依存関係を持たない Ubuntu Debian パッケージをアンインストールします。アンインストール・アクションでは、Ubuntu .deb パッケージは削除されますが、アンインストールされるパッケージの構成ファイルは削除されません。

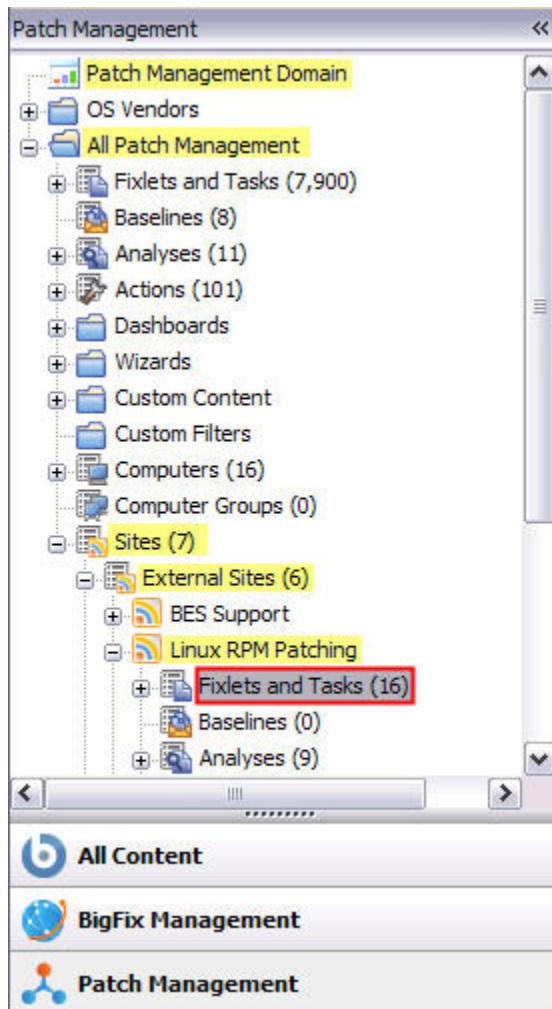
「アクション」ボックス内のページ・アクション・リンクを介して構成ファイルも削除することができます。

「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb packages)」タスクを使用して、Ubuntu Debian パッケージをアンインストールできます。

**■注:** 「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb packages)」タスクでは、削除するパッケージが他のパッケージに対する依存関係を持たない場合にのみ、パッケージがアンインストールされます。

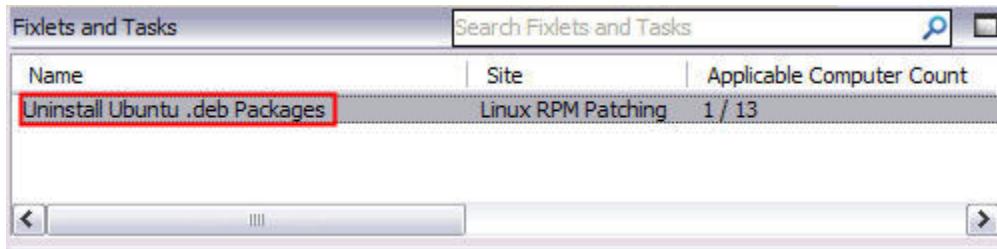
パッチをアンインストールするには、「パッチ管理ドメイン」をクリックします。ナビゲーション・ツリーで、「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」 > 「サイト」 > 「外部サイト」 > 「Linux RPM パッチ」 > 「Fixlet とタスク」をクリックします。

図 8. ナビゲーション・ツリーからの「Fixlet とタスク」の選択



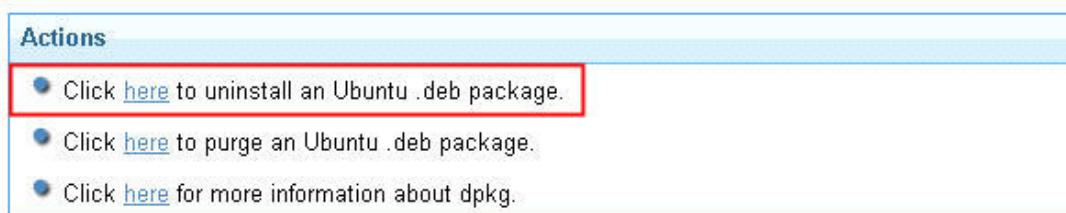
右側にあるリスト・パネルで、「Ubuntu .deb パッケージのアンインストール (Uninstall Ubuntu .deb Packages)」を選択します。

図 9. アンインストールする Ubuntu .deb パッケージの選択



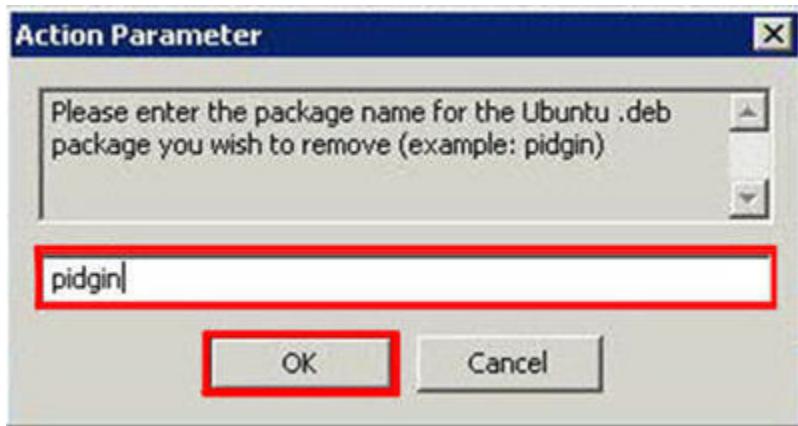
「アクション」ボックス内でアンインストール・アクションを開始するリンクをクリックします。

図 10. Ubuntu .deb パッケージをアンインストールするリンクの選択



「アクション・パラメーター」ウィンドウが開きます。パッケージ名を入力し、「OK」をクリックします。影響を受けるコンピューターは、パッチのアンインストール・タスクの実行結果を完了または失敗として報告します。「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析をアクティブにして、ログ・ファイル内のアクションの結果を表示することもできます。「エンドポイントの依存解決 - 適用結果」分析の使用について詳しくは、[アクション・ロギング \(##### 6\)](#)を参照してください。

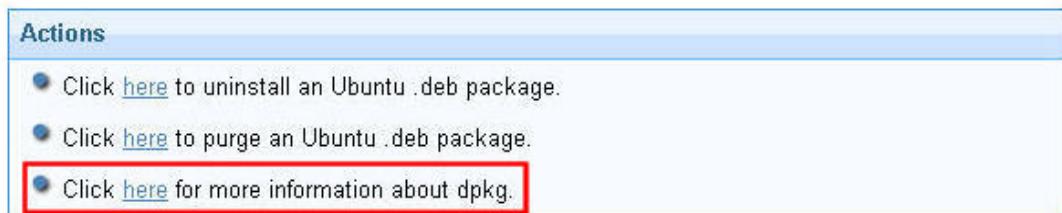
図 11. パッケージ名の入力および「OK」のクリック



アンインストール・アクションでは、Ubuntu .deb パッケージは削除されますが、アンインストールされるパッケージの構成ファイルは削除されません。ページ・アクション・リンクをクリックすると、構成ファイルも削除されます。

「アクション」ボックスで最後のアクションを実行すると、「**dpkg**」(Ubuntu Debian パッケージ・マネージャー) の使用についての情報を示すリンクが開きます。

図 12. dpkg パッケージ・マネージャーについての情報を示すリンクの選択



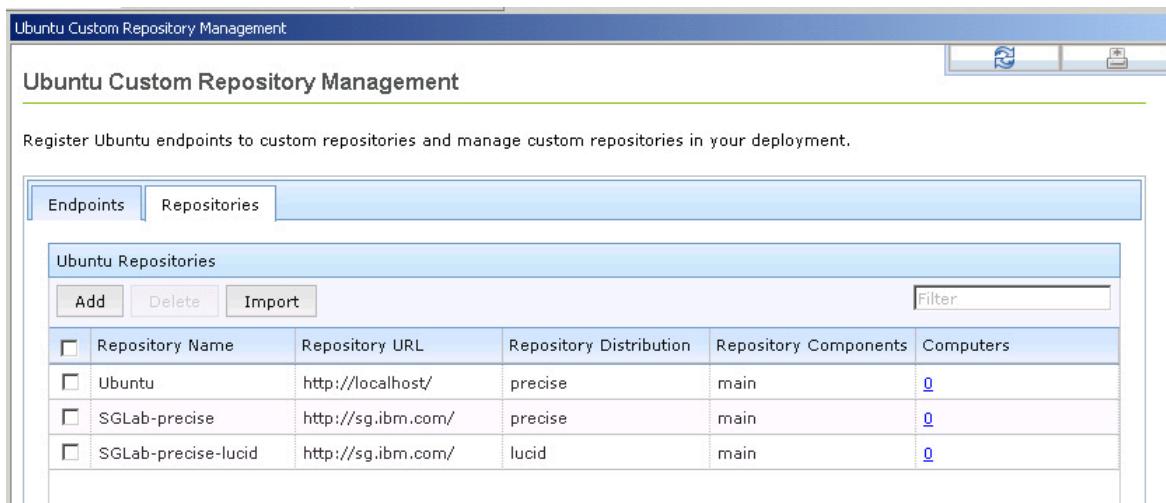
## リポジトリの追加

Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、リポジトリを追加できます。

以下のタスクを適用して、「パッチ・サポート」サイトにある分析をアクティブ化する必要があります。

- 分析: リポジトリ構成 - Ubuntu
- タスク(T): カスタム・リポジトリ・サポートの有効化 - Ubuntu

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。
2. 「リポジトリ」タブから「追加」をクリックします。



3. 「新規リポジトリの追加 (Add a New Repository)」ウィンドウで、以下のフィールドに詳細を入力します。
  - リポジトリ名
  - リポジトリ URL
  - リポジトリの配信 (Repository Distribution)
  - リポジトリ・コンポーネント (Repository Components)

Add a New Repository

Repository Name  
Ubuntu 2

Repository URL  
http://sg.ibm.com

Repository Distribution  
precise

Repository Components  
universe

**Save** **Cancel**

4. 「保存」をクリックします。

Ubuntu Custom Repository Management

Ubuntu Custom Repository Management

Register Ubuntu endpoints to custom repositories and manage custom repositories in your deployment.

Ubuntu Repositories				
	Add	Delete	Import	Filter
	Repository Name	Repository URL	Repository Distribution	Repository Components
<input type="checkbox"/>	Ubuntu	http://localhost/	precise	main
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise	http://sg.ibm.com/	precise	main
<input type="checkbox"/>	SGLab-precise-lucid	http://sg.ibm.com/	lucid	main
<input type="checkbox"/>	Ubuntu 2	http://sg.ibm.com	precise	universe

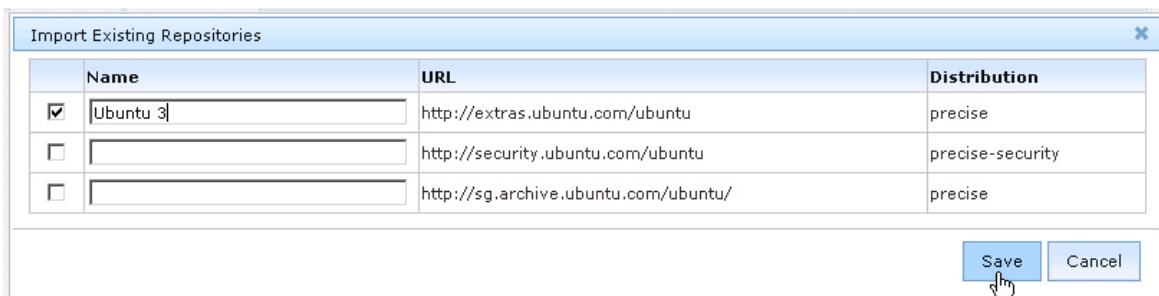
これでリポジトリが追加されました。

## リポジトリのインポート

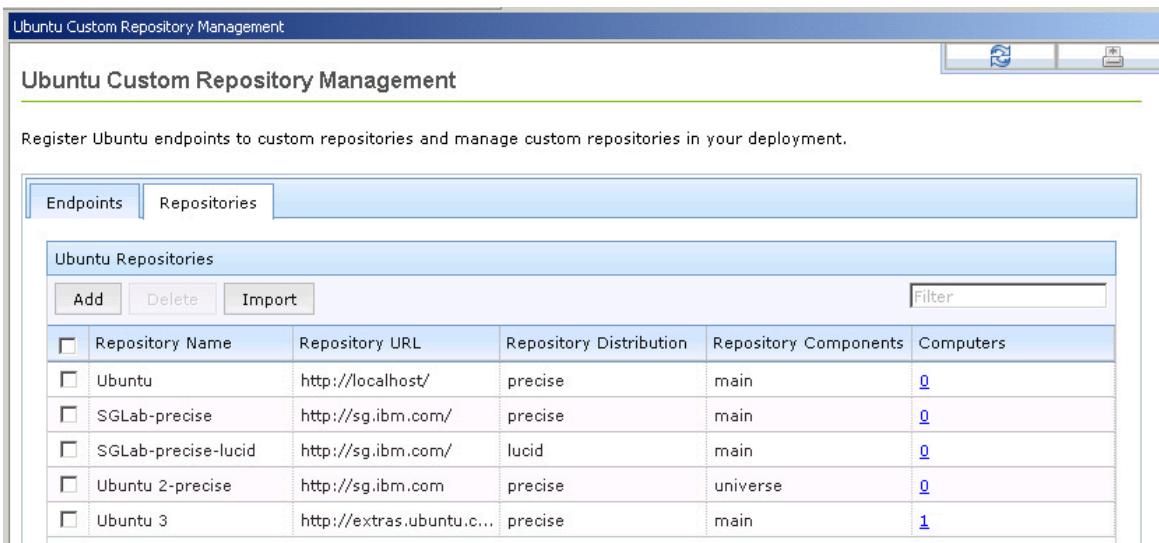
Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、リポジトリをインポートできます。

「パッチ・サポート」サイトにある「分析: リポジトリ構成 – Ubuntu」をアクティブ化する必要があります。

1. 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。
2. 「リポジトリ」タブから「インポート」をクリックします。
3. 「新規リポジトリのインポート (Import a New Repository)」ウィンドウで、リポジトリ名を入力します。



4. 「保存」をクリックします。



これでリポジトリがダッシュボードにインポートされました。

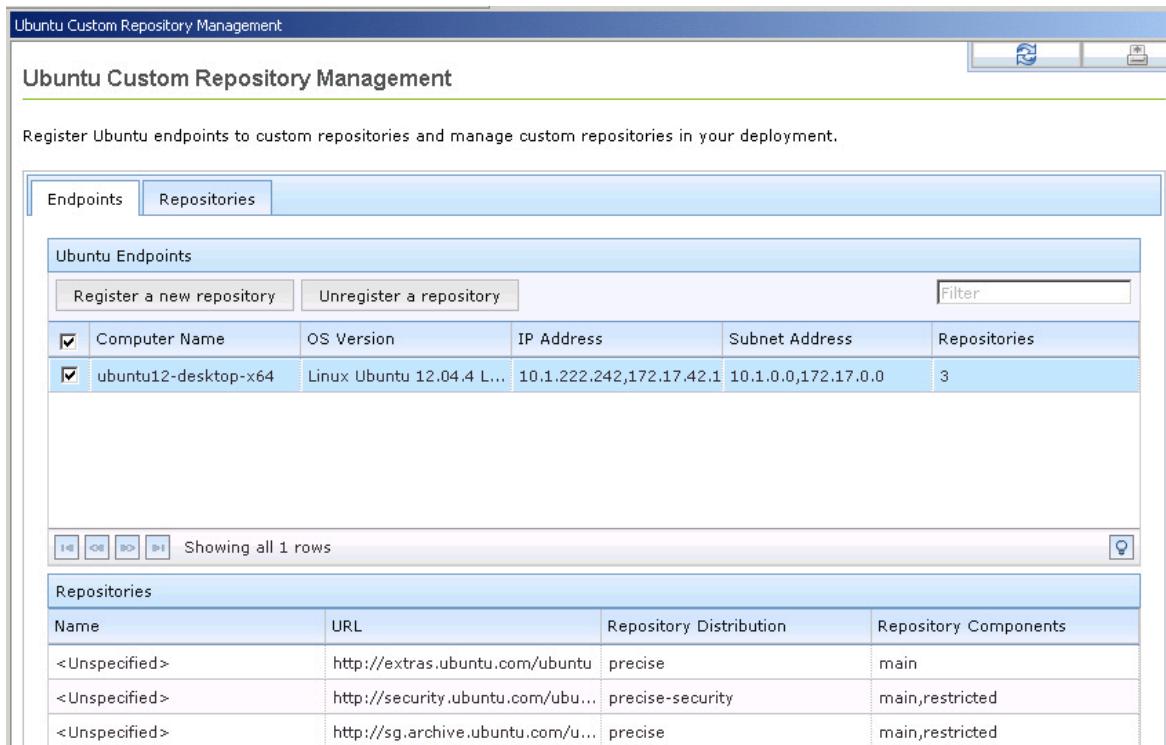
## リポジトリへのエンドポイントの登録

Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、エンドポイントにリポジトリを登録して接続します。

以下のタスクを適用して、「パッチ・サポート」サイトにある分析をアクティブ化する必要があります。

- 分析: リポジトリ構成 - Ubuntu
- タスク(T): カスタム・リポジトリ・サポートの有効化 - Ubuntu

- 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。
- 「エンドポイント」タブで、リポジトリを登録するエンドポイントを選択します。



The screenshot shows the 'Ubuntu Custom Repository Management' application window. The title bar is 'Ubuntu Custom Repository Management'. The main content area has a header 'Ubuntu Custom Repository Management' with a sub-instruction: 'Register Ubuntu endpoints to custom repositories and manage custom repositories in your deployment.' Below this is a toolbar with icons for search, refresh, and others. The interface is divided into two main tabs: 'Endpoints' and 'Repositories'. The 'Endpoints' tab is active, showing a table titled 'Ubuntu Endpoints' with columns: Computer Name, OS Version, IP Address, Subnet Address, and Repositories. One row is listed: 'ubuntu12-desktop-x64' with OS 'Linux Ubuntu 12.04.4 L...', IP '10.1.222.242', Subnet '10.1.0.0', and Repositories '3'. Below the table are navigation icons and a message 'Showing all 1 rows'. The 'Repositories' tab is shown below, displaying a table with columns: Name, URL, Repository Distribution, and Repository Components. Three entries are listed: '<Unspecified>' with URL 'http://extras.ubuntu.com/ubuntu', Distribution 'precise', and Components 'main'; '<Unspecified>' with URL 'http://security.ubuntu.com/ubu...', Distribution 'precise-security', and Components 'main,restricted'; and '<Unspecified>' with URL 'http://sg.archive.ubuntu.com/u...', Distribution 'precise', and Components 'main,restricted'.

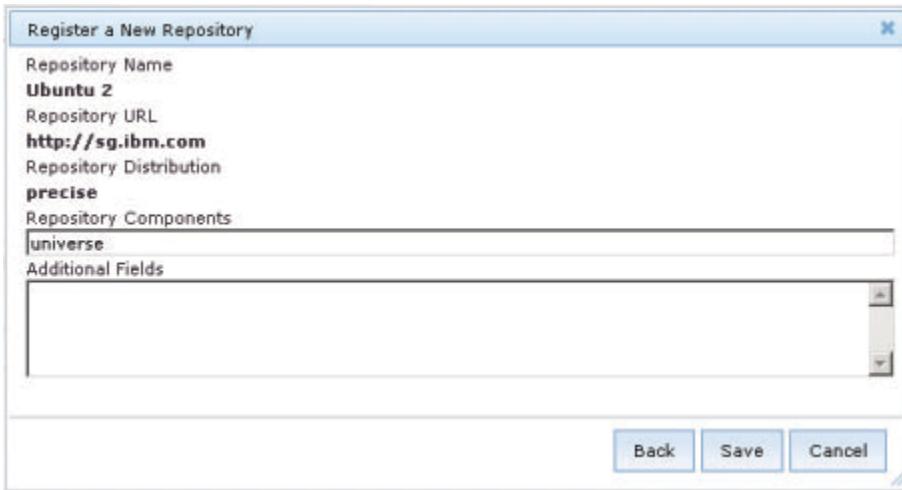
- 「新規リポジトリの登録 (Register a new repository)」をクリックします。選択したエンドポイントのリポジトリが、ウィンドウの下部にリストされます。リポジト

リーに未指定として名前が付けられる場合は、「リポジトリ」リストにリストされないことを意味します。

4. 「新規リポジトリの登録 (Register a New Repository)」 ウィンドウで、リポジトリを選択して「次へ」をクリックします。



5. 後続のウィンドウに、登録するリポジトリの名前、URL、および配信が表示されます。リポジトリ・コンポーネントを入力します。複数のコンポーネントを区切るにはスペースを使用します。フィールドを追加することもできます。

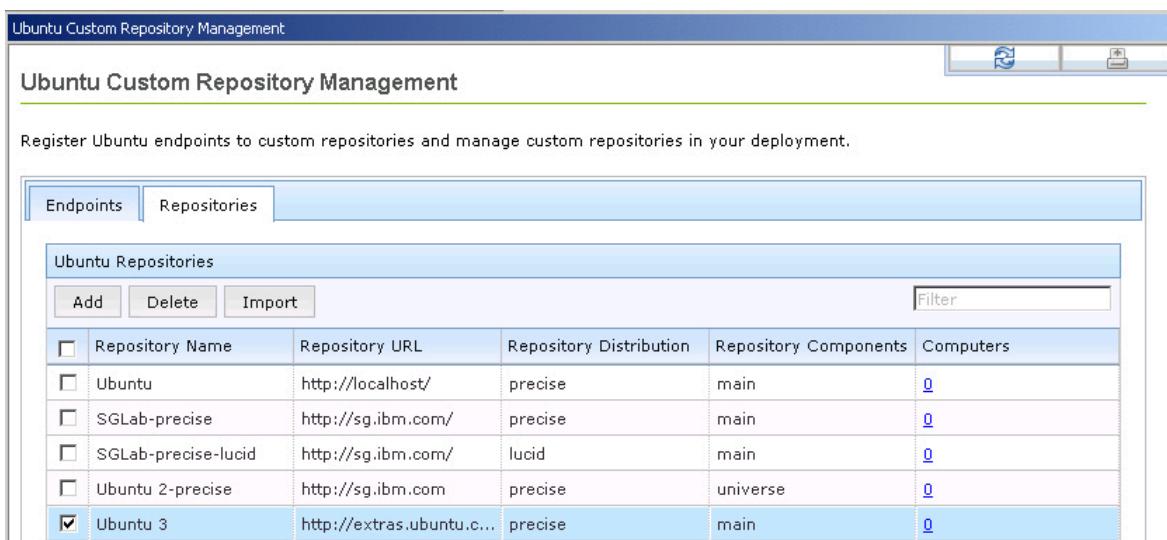


6. 「保存」をクリックします。
7. 「アクションの実行」 ウィンドウで、コンピューターを選択し、「OK」をクリックしてアクションを実行します。

## リポジトリの削除

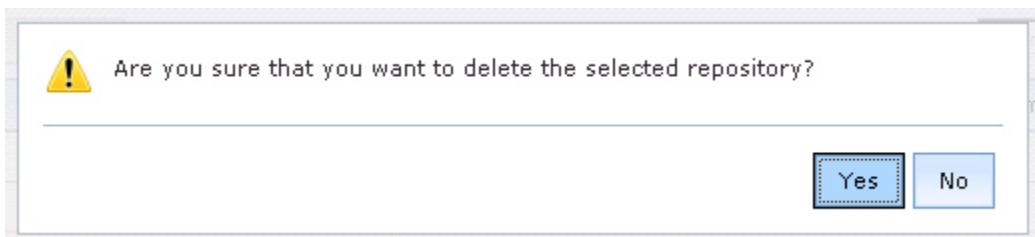
Ubuntu カスタム・リポジトリ管理ダッシュボードを使用して、リポジトリを削除できます。

- 「すべてのコンテンツ」ドメインから、「サイト」>「外部サイト」>「パッチ・サポート」>「ダッシュボード」>「Ubuntu カスタム・リポジトリ管理 (Ubuntu Custom Repository Management)」に移動します。



The screenshot shows the 'Ubuntu Custom Repository Management' interface. The main title bar is 'Ubuntu Custom Repository Management'. Below it, a sub-header says 'Register Ubuntu endpoints to custom repositories and manage custom repositories in your deployment.' There are two tabs at the top: 'Endpoints' (selected) and 'Repositories'. The 'Repositories' tab is active, showing a table titled 'Ubuntu Repositories'. The table has columns: 'Repository Name', 'Repository URL', 'Repository Distribution', 'Repository Components', and 'Computers'. Six repositories are listed, with the last one, 'Ubuntu 3', having a checked checkbox in the first column. Below the table are buttons for 'Add', 'Delete', and 'Import', and a 'Filter' input field.

- 「リポジトリ」タブで、削除するリポジトリを選択して「削除」をクリックします。
- 「はい」をクリックして、リポジトリを削除します。



これでリポジトリが削除されました。

## 付録 A. サポート

この製品について詳しくは、以下のリソースを参照してください。

- [Knowledge Center \(####\)](#)
- [BigFix サポート・センター \(####\)](#)
- [BigFix サポート・ポータル \(####\)](#)
- [BigFix Developer \(####\)](#)
- [BigFix Wiki \(####\)](#)
- [HCL BigFix フォーラム \(####\)](#)

# 特記事項

本書は米国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 HCL の営業担当員にお尋ねください。本書で HCL 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その HCL 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、HCL の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用できます。ただし、HCL 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

HCL は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

*HCL 330 Potrero Ave. Sunnyvale, CA 94085 USA Attention: Office of the General Counsel*

2 バイト文字セット (DBCS) 情報についてのライセンスに関するお問い合わせは、お住まいの国の HCL Intellectual Property Department に連絡するか、書面にて下記宛先にお送りください。

*HCL 330 Potrero Ave. Sunnyvale, CA 94085 USA Attention: Office of the General Counsel*

HCL TECHNOLOGIES LTD. 本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは默示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。HCL は予告なしに、隨時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において HCL 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この HCL 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

HCL は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対して何ら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および(ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*HCL 330 Potrero Ave. Sunnyvale, CA 94085 USA Attention: Office of the General Counsel*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用できますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンスプログラムまたはその他のライセンス資料は、HCL 所定のプログラム契約の契約条項、HCL プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、HCL より提供されます。

本書に含まれるパフォーマンスデータは、特定の動作および環境条件下で得られたものです。実際の結果は、異なる可能性があります。

HCL 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。HCL は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。HCL 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

HCL の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

**著作権使用許諾:**

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプルプログラムが書かれているオペレーティングプラットフォームのアプリケ

ションプログラミングインターフェースに準拠したアプリケーションプログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、HCL に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布できます。このサンプルプログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。したがって HCL は、これらのサンプルプログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証したりすることはできません。これらのサンプルプログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。HCL は、お客様の当該サンプルプログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプルプログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。© (お客様の会社名) (西暦年)。このコードの一部は、HCL Ltd. のサンプルプログラムから取られています。

## 商標

HCL Technologies Ltd.、HCL Technologies Ltd. ロゴ、および hcl.com は、世界の多くの国で登録された HCL Technologies Ltd. の商標または登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Oracle やその関連会社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれ HCL または各社の商標である場合があります。

# 製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

## 適用度

HCL Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

## 個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製できます。ただし、HCL の明示的な承諾を得ずには、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布(頒布、送信を含む)または表示(上映を含む)したりすることはできません。

## 商用使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示できます。ただし、HCL の明示的な承諾を得ずには、これらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

## 権限

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が HCL の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、HCL はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

HCL は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。